



生徒のみなさんへ 来年のチームづくりの参考に~強いチームは心が育っている~

本日、中間テストが終わって部活動が再開する。県スポレクへ向けてさらにチーム力を強化していく部、来年の県総体予選、県総体へ向けて新たに再出発をきる部と部活動によって目標は様々である。そんな各部のみなさんへ、先日の「強くなるチームと弱くなるチームの違い」に続く、部活動強化方法の第2弾を紹介する。

「ハイ」という素直な返事……しかし、この「ハイ」の裏に本当の素直さがあるかどうか大切です。本当に心から指導者や仲間を信じて「ハイ」と言える子はぐんぐんと伸びていくし、試合でも結果を出します。

この言葉は、全国大会上位入賞を続けてこられたある高校のソフトテニス部監督が言われた言葉である。高校の全国大会に出場する学校の選手は、当たり前のように大きな声で返事をする。そして行動もテキパキとしており、とても礼儀正しい選手ばかりである。そうでないと選手に選ばれないのだから、みんな一生懸命に礼儀を身につけていく。そんな全国クラスのチームどおしが戦ったとき、勝敗の決め手になるのは、心から指導者や仲間のことを信じて返事をしていたかどうかという点なのだそう。心から信じて返事をしていた選手は、練習ひとつをとっても、その練習に打ち込む姿勢が違う。その積み重ねがチームの大きな力の差として試合に現れるということだそう。やはり全国トップクラスのチームの監督の視点は違うと感心した。この監督はさらに、「全国のトップに立つのに特別なことなど必要ありません。仲間を信じる。きちんとあいさつができる。注意を感謝の心で受けられる。集中して練習に取り組める。そんな誰にでもできる平凡なことを、誰よりも確実にできればいいのです」と言っている。

ここで、甲子園出場を目指したある高校の野球部監督のお話を紹介する。高校の野球部と言えば、甲子園に出場するために非常に厳しい練習をするし、あいさつや礼儀などの面でも鍛えられている。この日も練習はそんな厳しいものだった。「猛練習が終わった後、もうお腹はペコペコです。そこに、保護者から50個のおにぎりの差し入れがありました。保護者の一人が心を込めてにぎったおにぎりです。でっかいおにぎりからちょっと小さいおにぎりまで大きさはいろいろです。それらが並べられているところへ練習の終わった3年生がやってきました。まず1番におにぎりを取ったのはキャプテン、そしてレギュラー、補欠…。それから次にやってきた2年生のレギュラー、補欠…。次々とおにぎりの数が減っていきます。でも大丈夫、なくなりはありません。部員は50人。1人1つずつあるからです。やがて1年生がグラウンド整備から帰ってきて、おにぎりのところへ。順におにぎりを取っていき、最後の部員の番になりました。最後、つまり50番目の部員。1年生の中でも一番下手だが、いつも最後まで一生懸命に整備をしている部員です。その部員の前に残っていたのは…」



(裏面に続く)

ホームページで日々の学校生活の様子を紹介しています。

<https://www.torikyo.ed.jp/yurihama-j/>



この監督は、野球部の目標は『甲子園に出ることではなく、甲子園を目指して練習をしていく中で人間を育てることだ』と言っておられた。毎年毎年『素直に、謙虚に、常に挑戦者たれ』を合い言葉に他の部活の活動時間と同じ時間で甲子園を目指しておられたそうである。この監督のお話の続きは「一番最後になった部員の前に残っていたのは…。50個のおにぎりの中で一番大きなおにぎり。49人分の思いやりがぎっしりとつまった一番大きなおにぎりでした。私はこんな野球部をつくりたいと思って頑張ってきました」であった。チームを何度も甲子園に連れて行った監督の言葉だからこそ説得力がある。来年の夏、君たちが県総体予選や県総体でどれだけ活躍できるのかは、これからの君たちのチームづくりにかかっている。



運動会の保護者アンケートに答えて

(意見1) ①どの競技も見ていて楽しかったです。みんなが一生懸命に取り組んで楽しんでいる姿がとても良かったです。②分かりやすいルールで、楽しく応援できました。③タイヤのAでは、正確にタイヤの数が数えられていたのかという場面があった。騎馬戦の勝敗が保護者からは分かりにくいので改善した方がいいのではないかと。

(回答) 多くの保護者のみなさんから、生徒、教職員の頑張りを肯定していただく意見をいただきました。本当にありがとうございます。種目のルールについても②のような評価をたくさんいただいたのですが、③のように得点のつけ方がわかりにくかったというご意見も何名かの保護者の方からいただきました。タイヤの数については勝敗がかかっており、担任もこっそりと教えていましたので大丈夫だと思います。ただ、タイヤごとの得点、少しでもラインにかかっているタイヤは無得点、といった勝敗に関わる説明を学校日より等で丁寧に行い、集計中にも何度か放送を入れておけば良かったと反省しています。また、騎馬戦の勝敗については紙が破れたと判定された生徒だけを立たせるなどして、勝敗がわかりやすいようにすべきだったと感じました。今後にかかしていきたいと思えます。

(意見2) タイヤのA、非常に白熱して面白い競技ではありましたが、残暑長引く昨今に長袖で動くことは危険ではないかと思えました。

(回答) 練習段階で長袖体操服をやめる提案をしたのですが、生徒の方からタイヤを持つときに腕がすれて痛いという意見がありました。そこで、練習中から競技時間の多くが集計と準備の時間でしたので、対戦中のみ長袖を着て実施することにしていました。ところが、運動会当日は教職員、生徒ともに競技に夢中になってしまったためか、そのことを完全に忘れてしまっていました。ご意見にもあるように命にも関わることでありますので、徹底しなければいけなかったと反省しています。本当に申し訳ありません。

(意見3) 種目によって、時間が長くなりすぎているものがあったので、熱中症が気になった。

(回答) 今回の運動会で時間が長くなりすぎた競技は得点集計に時間がかかる競技でした。具体的には2年生の騎馬戦と3年生のタイヤとりです。どちらとも競技時間はそんなに長くはないのですが、その何倍も集計に時間がかかってしまいました。集計係の生徒もかなり練習をしたのですが、やはり大変だったようです。今後は、少しでも集計に時間がかからないよう工夫していきたいと思えます。また、熱中症については、今後開催時期の検討をしていきたいと考えています。

(意見4) グラウンドを駐車場として開放することで、2、3年生の全保護者が校内に駐車することができて良かった。今までにもその方法を思いついてほしかったです。

(回答) 実はグラウンドの開放は開校時から検討していましたが、実現できなかったのは、雨天時や雨天後にグラウンドに車が入ると数cmの深さのタイヤの跡ができるからです。そのタイヤの跡が原因で体育や部活動の時に生徒がケガをしたり、部活動でボールのバウンドが変わって練習に影響が出てはいけなくて開放できませんでした。今年は例年と違い、アロハホールが駐車場が利用できず、グラウンド開放以外に方法がなかったのが開放理由です。今後はグラウンド開放を前向きに検討していきたいと思えますが、駐車スペースはグラウンドの端の方が中心で、車で入ってはいけないスペースもできると思えますので、配付文書やマチコミメールをチェックしていただき、駐車ルールを厳守するようにお願いします。